

新大学構想会議ヒアリング資料

2012年7月24日

大阪市立大学大学院
創造都市研究科

目次

- 0. 本研究科の概要、沿革
- 1. 特徴的な取り組み、成果
- 2. これまでの改革の取り組み
- 3. 他大学と比較した特徴
- 4. 主な産学官連携の取り組み、成果
- 5. 基本理念と今後の展開、改革

0-1 本研究科の概要

- 都市の創造活動を担う指導的人材の育成と、創造都市実現に必要な知の創造を目的に設立された社会人向け大学院
- 修士課程に3専攻7分野、博士後期課程に5領域と多彩な分野を配置
- 修士課程・博士（後期）課程の学生に対する少人数のインタラクティブな教育と、様々な専門領域からの研究・アプローチを展開

0-2 沿革

年 月	事項
2003年4月	修士課程開設、3専攻8分野、一学年定員120
2005年4月	博士（後期）課程新設、1専攻5領域、一学年定員10名
2005年10月	外部委員による経営評価
2006年4月	都市情報学専攻における再編
2011年4月	都市ビジネス専攻における再編

0-3 設置目的、目標

- 設置目的、設置趣旨

「都市の創造機能の再生と維持」

社会の現場に働く人々に、その専門に係わる高度の知識体系を提供すると同時に、問題解決型の知的創造を行う能力を涵養する

- 人材養成目標

「創造的な都市を担う創造的人材」

0-4 研究科の構成 (3専攻7分野:2013年4月)

- 都市ビジネス専攻
 - アントレプレナーシップ研究分野
 - アジアビジネス研究分野
- 都市政策専攻
 - 都市経済・地域政策研究分野
 - 都市公共政策研究分野
 - 都市共生社会研究分野
- 都市情報学専攻
 - 知識情報基盤研究分野
 - 情報システム創成研究分野

1. 特徴的な取り組み、成果

(1) 教育理念と教育方針

- 学問的な知と実践的な知の出会いの創出

実践的な課題の抽出と解決をめざすうえで
必要な問題発見、問題提起力および課題
解決の提案力と実践的なマネジメント能力
の育成

→少人数による対話型相互学習

1. 特徴的な取り組み、成果

(2) アドミッションポリシーと入試方法

関西地域を創造的な都市圏として活性化するために貢献する高度専門職業人（修士課程）と実務的研究者養成（博士課程）

各分野ごとの人材育成目標を定め、研究科および分野パンフレット、研究科および分野ホームページ等、様々な媒体で周知をはかってきた（中期計画）

A. 社会活動の重視（学歴の補償）

受験資格認定制度：大学卒業相当の認定

B. 書類審査

勤務実績報告書、研究計画書、キャリアプラン

C. 面接による評価

分野適合性、学習貢献、研究能力、活躍期待

D. 補助的な確認（筆頭試験）

文章作成力、日本語能力

1. 特徴的な取り組み、成果

(3)カリキュラムポリシー

- ・基礎科目

研究法、概論的基礎理論など(選択)

- ・中核科目

分野の扱う 이슈ーに関連したもの(必修)

- ・探究および展開科目(選択)

分野関連課題を深く理解し、他分野へ応用

- ・修了論文指導

リサーチペーパー、修士論文の2タイプ

1. 特徴的な取り組み、成果

(4) 特徴的なカリキュラム設計

- ・平日二日(夜間)と土曜日(午前と午後)の通学で2年間の課程を修了可能(指導関係の解放性確保のための複数指導体制)

- ・ワークショップⅠ・Ⅱ(いずれも3単位)

各研究分野に関して顕著でユニークな実践活動の創出者をゲストとする3コマ(1コマ50分)連続の授業

- ・課題研究Ⅰ・Ⅱ(2単位、3単位)

少人数グループによる、学生の実践フィールド活動に関連するテーマの探究

1. 特徴的な取り組み、成果

(5) 研究活動支援プログラム;教員・院生共同研究プログラム(2004年より) 24年度採択例

- ・学生が自主的に教員と共同でプロジェクトを企画するもの。
- ・毎年20以上のプロジェクトを採択、1年かけて報告書作成など教育・研究上の成果に仕上げる。
- ・2004年より毎年実施。

	研究テーマ	院生参加者数
1	社会人材活用のマッチング機能に関する研究	4
2	『高齢化社会下で生き延びていくための会社経営と新規事業』	3
3	「ケースから学ぶベンチャー企業失敗の分析」	4
4	『<孫子の兵法>を、現代ビジネスにどう応用できるか』	3
5	東・東南アジアにおける新しい産業発展とビジネスモデルの追及	6
6	アジア日系企業「経営現地化」の新展開に関する研究	4
7	「中国における日経企業の現地化と競争戦略」	6
8	日中の経済成長に関する研究—企業システムの研究と地域戦略の国際比較	6
9	アーツによる田園創造都市の構築に関する研究	7
10	21世紀型まちづくり研究会「21世紀型まちづくり研究」	11
11	「連環型」地域産業政策の研究	4
12	超高齢社会における地域の産業化と自立に関する研究	14
13	「日韓中における母子家庭への生活支援の比較研究」	5
14	定常型社会における「新しい豊かさ」の研究	6
15	再生可能エネルギー法政策研究会	7
16	関西三空港の在り方を考える研究会	5
17	社会的条件不利とカウンセリング	7
18	子供・若者の「学校」から「社会」への移行支援	12
19	電子書籍と出版系メディアの変容	5
20	IT拠点構想の実現について	3
21	都市環境モニタリングのための高精度位置情報取得システムの構築	5
22	記憶の想起を支援する手法の開発	5

1. 特徴的な取り組み、成果

(5) 研究活動支援プログラム

博士課程講師招聘プログラム

博士論文作成において多岐にわたる専門知識は必要であり、講師を招いて補う。

博士課程講師招聘数一覧

	前期	後期	計
2009年	7	2	9
2010年	4	5	9
2011年	5	5	10
2012年	10		10

1. 特徴的な取り組み、成果

(6) 優秀な学生の顕彰

マスター・オブ・ザ・イヤーの選出と表彰
(修了セレモニー時に賞状と記念品の授与)

毎年度、各分野から1名を選出

＜評価基準＞

- 科目成績および論文
- 学習貢献度
- 社会実践活動など

1. 特徴的な取り組み、成果

(7) 修了者数

2005年度より9月修了の制度を設けて、院生の実情に見合う就学期間の調整を図った。

2011年度までの修士課程修了生は計890名(博士課程修了生41名)を数える。

	修士課程	博士課程
2003年度 (短期修了のみ)	1	
2004年度	132	
2005年度 (9月修了開始)	6	
	110	
2006年度	6	
	94	2
2007年度	3	
	115	4
2008年度	4	1
	107	5
2009年度	5	2
	94	7
2010年度	5	
	100	9
2011年度	6	3
	102	8
合計	890 (人)	41 (人)

1. 特徴的な取り組み、成果

(8-1) 研究支援

・研究科紀要

【研究科全体の紀要『創造都市研究』（印刷出版形式）】

http://www.gscc.osaka-cu.ac.jp/souzou_kenkyu/index.html

○『創造都市研究会』を組織し発行:教員（客員研究員含む）論文、ノート、資料、調査報告、博士課程院生論文等から構成

*博士課程院生の論文は、編集委員会・査読者の厳格な査読審査の結果通ったものののみ掲載

巻／号	発行	論文数	
		教員	博士院生
第1巻第1号（通巻1号）	2006年3月	6	2
第2巻第1号（通巻2号）	2006年9月	2	2
第3巻第1号（通巻3号）	2007年5月	2	3
第3巻第2号（通巻4号）	2007年12月	1	3
第4巻第1号（通巻5号）	2008年6月	1	5
第5巻第1号（通巻6号）	2009年6月	2	1
第5巻第2号（通巻7号）	2009年12月	1	5
第6巻第1号（通巻8号）	2010年6月	1	2
第6巻第2号（通巻9号）	2010年12月	3	2
第7巻第1号（通巻10号）	2011年6月	3	2
第7巻第2号（通巻11号）	2011年12月	5	5

1. 特徴的な取り組み、成果

(8-2) 研究支援

【研究科全体の電子紀要『創造都市研究e』】

<http://creativecommons.gscs.osaka-cu.ac.jp/>

○研究科全体の電子ジャーナル『創造都市研究e』を運営。

○主として修士課程の多くの修了論文(現在までに900本近く)のうち、教員が審査し、特に教員から推薦を受けた優秀論文のみを投稿し、サイト<http://creativecommons.gscs.osaka-cu.ac.jp/> にアップし掲載・公開する形式をとる。

巻／号	発行	論文数
1号	2006年	5
2号	2007年	2
3号	2008年	2
4号	2009年	2
5号	2010年	2
6号	2011年	2
7号	2012年	6

1. 特徴的な取り組み、成果

(8-3) 研究支援(分野)

【都市経済・地域政策(都市経済政策)
研究分野紀要『都市経済・地域政策』】

巻／号	発行	論文数
0号	2004年	0
1号	2005年	9
2号	2006年	6
3号	2007年	9
4号	2008年	6
5号	2009年	5
6号	2010年	7
7号	2011年	7
8号	2012年	8

【都市共生社会研究分野紀要
『共生社会研究』】

巻／号	発行	論文数		
		教員	学生論文	外部投稿
No.0 (創刊準備号)	2004年	5	3	0
No.1(創刊号)	2005年	2	1	1
No.2	2007年	2	2	2
No.3	2008年	1	4	2
No.4	2009年	2	2	0
No.5	2010年	3	3	0
No.6	2011年	4	3	0
No.7	2012年	4	3	3

【都市情報学専攻紀要『情報学 Journal of Informatics』】

巻／号	発行	論文数
1巻1号	2004年	8
2巻1号	2005年	10
3巻1号		9
3巻2号	2006年	6
4巻1号	2007年	11
4巻2号		12
5巻1号	2008年	10
6巻1号	2009年	8
7巻1号	2010年	4
8巻1号	2011年	7
8巻2号		5
9巻1号	2012年	9

2. これまでの改革の取り組み

(1) 教員研修

- 創造都市研究科は、授業評価、それによる授業の改善プロセスを重視
- 不断のFD研修による向上を基本的に創設以来実施（初夏～初秋の時期に年1回研修会）。全教員に出席を義務づけ、各回教授会でもアナウンスし、出席を促している。
- 前半：原則として外部の専門家を講師にお招きして講演いただく。濃密なディスカッションを通じて教員のかかえる課題や問題意識を知って頂きご指導いただく。
- 後半で、修了生アンケートの結果について検討をおこない、全員で議論し課題の抽出・改善の方向を議論。

これまでのFD研修会の課題は以下の通り。

- ・2005年度：「ハラスメント研修」（ウィメンズカウンセリング 井上摩耶子氏）
- ・2006年度：研究科内での討論
- ・2007年度：「学生が自立的に学べる・学べ続ける大学教育をどう実現するかーカリキュラム、授業方法、評価の連携ー」（国際基督教大学前学長 絹川正吉氏）
- ・2008年度：研究科内での討論
- ・2009年度：研究科内での討論
- ・2010年度：「アカデミックハラスメントならびにパワーハラスメントをなくすために必要なこと」（関西学院大学常勤講師、アカデミックハラスメントをなくすネットワーク理事 吉野太郎氏）
- ・2011年度：「大学における個人情報取り扱いについて」（大阪市代表監査委員 高橋敏朗氏）
- ・2012年度予定：「価値を生む大学へとつながる評価の実践と書き方」大学評価・学位授与機構 研究開発部・准教授 田中弥生氏）

2. これまでの改革の取り組み

(2) 授業評価アンケート

毎年度前期・後期に各講義科目について実施し、担当教員に全科目の結果をフィードバック。自己点検を促している。

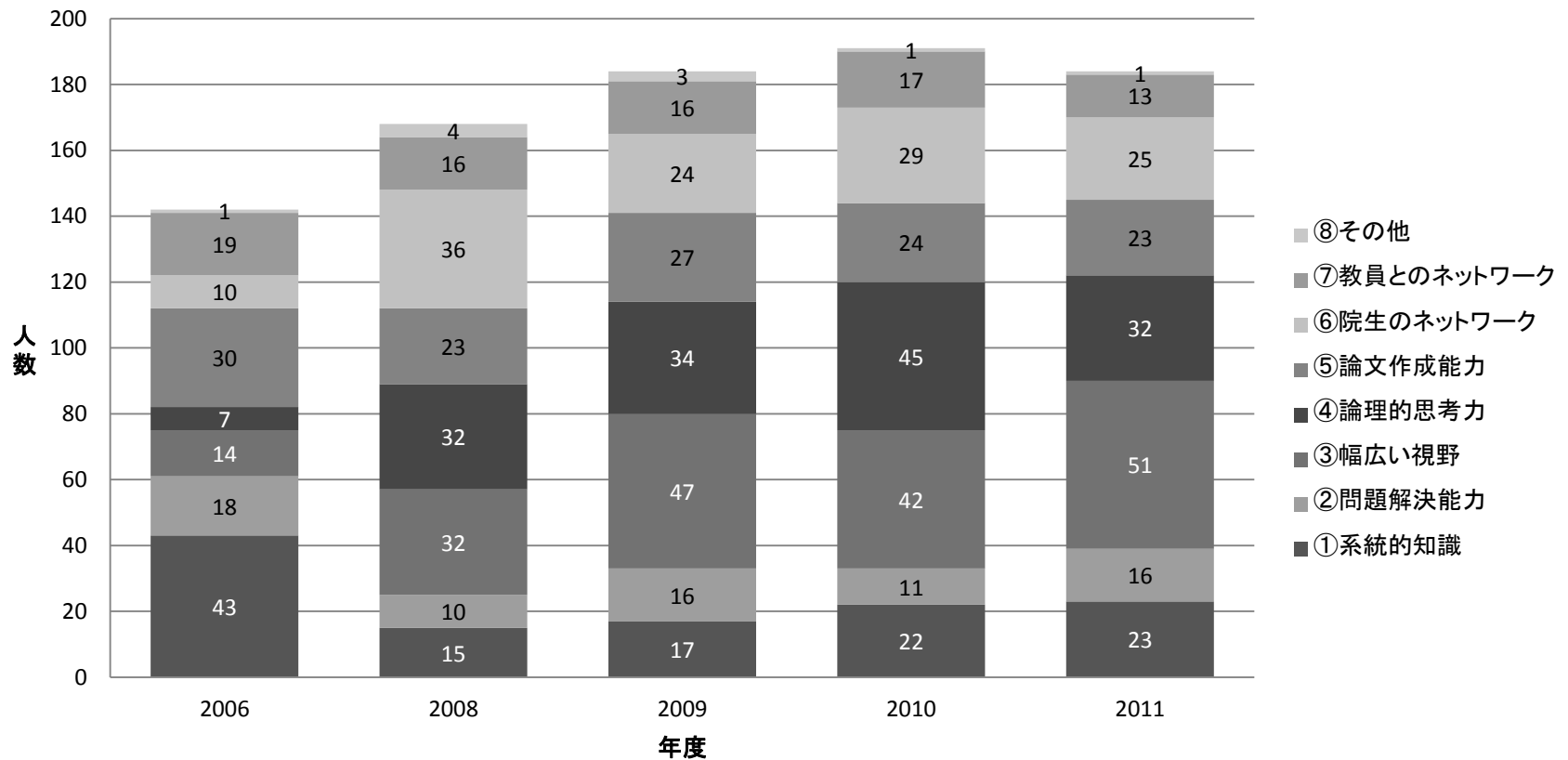
<平成23年度後期例:5段階評価による全科目平均値>

A1	あなたは必要な準備(予習等)をして授業に臨みましたか	3.46	
A2	あなたは授業に熱心に取り組み(質問、発言など)しましたか	3.68	
B1	授業内容はシラバスの目的どおりの内容でしたか	4.27	
B2	授業の全体構成(テーマと時間配分)は満足でしたか	4.33	
B3	教科書、参考書、資料等の利用の仕方は適切でしたか	4.31	
B4	予習・復習を助ける勉強方法が明示されましたか	4.13	
B5	授業内容からみて試験、レポートなどその量やレベルは適切でしたか	4.29	
B6	授業を通じ問題解決が図られたり、更なる自身の啓発を生み出すものとなりましたか	4.38	
C1	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.59	
C2	教員は授業のために十分な準備をしていると思いましたか	4.58	
C3	授業を効果的に実施する(わかりやすさなど)ための工夫が教員に見られましたか	4.44	
C4	教員の話し方(音量、スピード)、板書、OHPやパワーポイントの利用の仕方は適切でしたか	4.4	
C5	学生の理解度を把握して授業を行っていましたか	4.3	
C6	質問、発言に対する対応は適切でしたか	4.45	
D1	この授業を履修する目標を達成しましたか	4.36	
D2	この授業についての総合的な評価を示してください	4.43	

2. これまでの改革の取り組み

(3) 修了生アンケート①

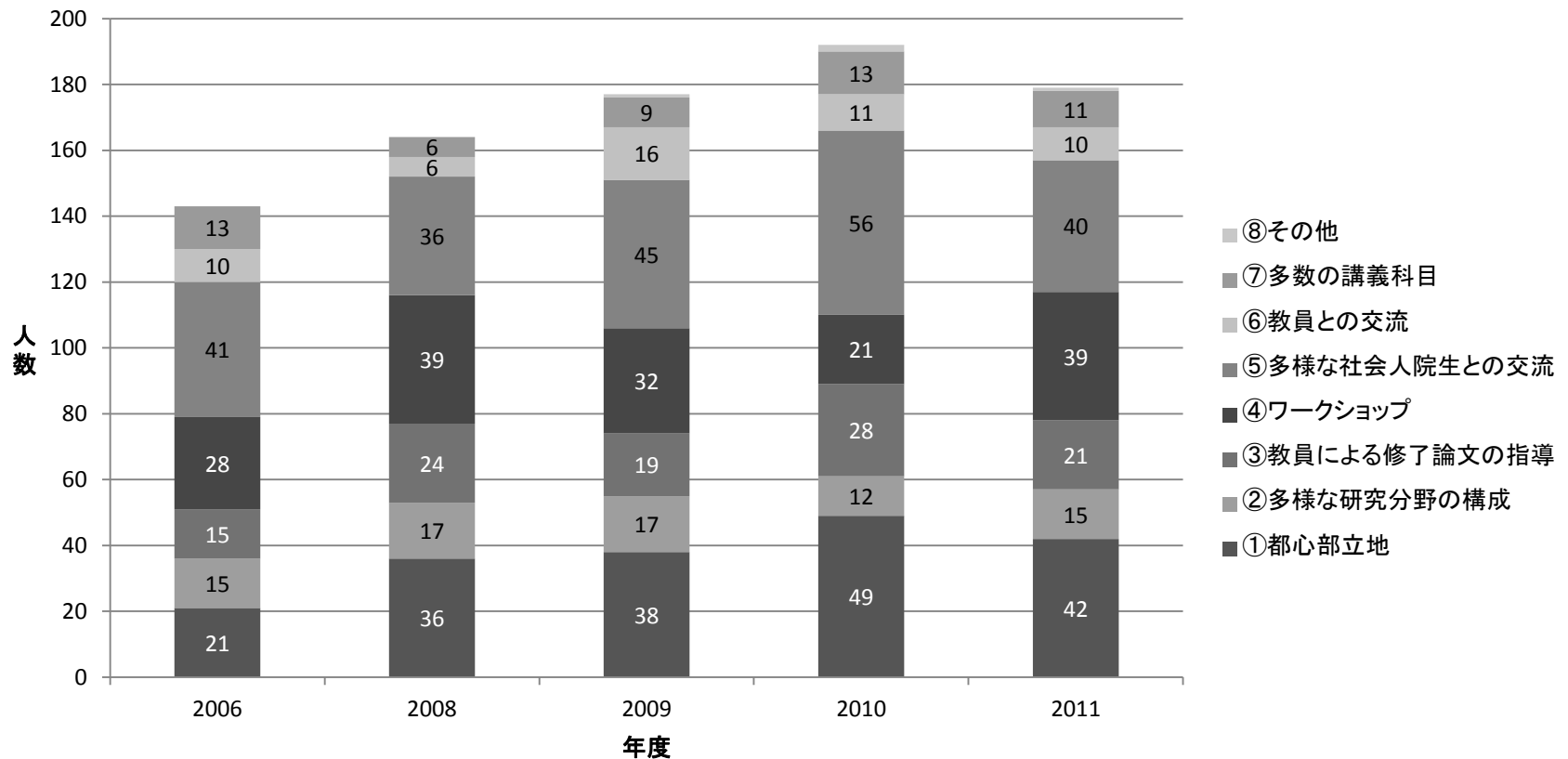
図1 本大学院で得たもの 修了生全体



2. これまでの改革の取り組み

(3) 修了生アンケート②

図2 本大学院の魅力 修了生全体



2. これまでの改革の取り組み

(3) 修了生アンケート③

図3 満足度 修了生全体

